

大町町長 水川 一哉



創造！～住みやすさを形に～

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様には、輝かしい希望に満ちた新春をお迎えるのことに、お慶び申し上げます。

旧年中は、町政の円滑な運営及び長引く新型コロナウイルス感染症予防対策など、ご理解、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨年は4年前に町政を託していただいたから2期目の集大成の年を迎えました。

お約束をした公約の実現に向けて、一つ一つ取り組んできたところではありますが、大町町を取り巻く厳しい情勢の変化により、思うに任せないことも多々あり、深くお詫び申し上げます。

振り返りますと、令和元年、3年と、大きな豪雨災害に見舞われ、重点的な災害復旧や防災力強化など、防災・減災、内水対策をはじめ、長期化する新型コロナウイルス感染症予防への対応や、原油価格・物価高騰等に対する町民の皆様の暮らしへの負担軽減対策、加えて消費喚起促進による商業支援や、肥料燃料高騰助成等の調達コスト抑制による農業支援など、暮らし・経営・経済支援対策を主要施策として全力で当たってまいりました。

また、町の大きな施策の一つである「定住・移住促進」では、民間の力も借りながら、町外から移住される方々の住まいの受け皿となる賃貸集合住宅や戸建て住宅、優良田園住宅の建築促進、さらに転入される方々への経済的なサポートや子育て支援を行い、徐々に効果も表れ、転入、転出に係る社会減の抑止につながってき

ました。

今後、定住促進事業の更なる推進はもとより、住宅環境の整備、他市町にはない子育て支援、魅力ある教育環境の充実等に努めると共に、高齢者の皆様が生きがいをもって生き生きと健康に生活していただけるような施策を考えていきたいと思っています。

また近年、全国的に大規模な災害が発生し、各地で甚大な被害をもたらしています。

大町町は、2年間で2度の災害を教訓に、「人命第一・逃げ遅れゼロ」を掲げ人命を守ることを最優先事項として、災害対応及び防災対策に努めています。ため池やクリーク等に内水を溜め、下流域への負担を軽減し、排水機(ポンプ)の増強により内水を外に流す。このように、「人を守る」「水を溜める」「内水を外へ流す」ことを3本柱として、国、県、流域市町と共に内水対策に全力で取り組んでいます。

目指すは「床上浸水ゼロの実現」です。示された浸水シミュレーションによると、国、県、流域市町、そして大町町がそれぞれの対策を確実に講じることにより、それは可能だと考えています。

大きな被害をもたらす大雨や台風は、温暖化による気候変動が大きな要因と言われおり、温暖化抑止への対策は地球規模の喫緊の課題です。この大きな世界的問題にも、大きな災害を受けた町だからこそ、微力ですが真剣に考えていかなければならないと思います。

佐賀県で一番小さな大町町ですが、それでも、人口密度は県内で4番目に高い町です。「コンパクトな町」だからこそのこと、いろんなことを考え、実践し